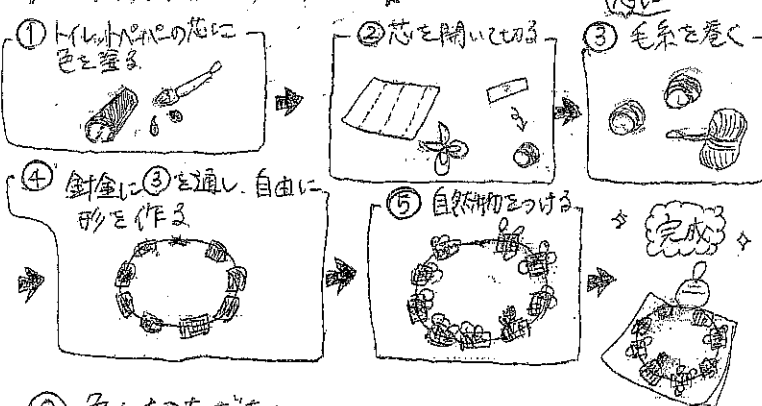


かぜぐみ

① クリスマス制作

12月に入り、毎朝にクリスマスの飾りが飾られて、朝のお集まりでは、「みんなのところにプレゼントが届きますように」「もうすぐクリスマスです。イエスさまのお誕生日です。みんなのこを見守ってください」など お当番が素敵なお祈りをしてくれています。クリスマス制作ではクリスマスリースを作りました。はさみを使っての制作を重ね、はさみを使うことを楽しみにする姿があります。持ち方や力の入れかた減も自分で「こうやってかえ？」と考えています。トイレットペーパーの芯を使ったので、いつもの画用紙と違い、切る時に力がいたり、思った方向に切れないと苦戦しながらも、真鍮針は表情で切り進めていました。毛糸を巻いたり、自然物をつけたりする工程では、ホドが手につくのが苦手の子ども、手の平全体についてしまったりつけるごとに手を洗いたい様子の子もいたり、様々です。トイレットペーパーの芯の色や、切る幅、毛糸の色、針金の長さや形など、子どもたちが自分で選択して作ることで、楽しいと感じることが出来る年齢に達してきているので、自分で選んだり決めたりすることを大切に進めました。大きいものもあれば、小さいものもあったり、リースの形や自然物の量で違って、つけた場所もそれぞれ個性が出ていて、素敵なリースが出来上がりました。「おうちにかざると、持ち帰る日を楽しみにしている子どもたちです。」

★ クリスマスリースの工程 ★



② 色んな友達と

1ヶ月に1回たんぽぽ組やみず組と交流で散歩に出かけます。幼児クラスではいつも字でもう方ですが、年少見クラスとの散歩では字の方にはなれて、小さい友達と字のために車道側を歩くことや、歩くペースを合わせながらも前の距離感も考えることが難しい場面が多いです。異年齢との交流を積み重ねる子どもたちの中に、お兄さんお姉さんとしての優しい気持ちが芽生え、また、そっけないよう組の姿を見て小まめな気持ちも抱いたり、同じ年の友達との関わりだけでは見えない姿も大抵にしています。

★ 1月から様子を見て、7月のリレー準備(リレーの中に流し物・水筒を自分で入れる)を子どもたちと進めていこうと思います。よろしくお願ひします。

かぜ・そら・たいようぐみ

12月 クラスだよ

2022.12.28 円町まぶね隣保園

クリスマスに向けて、それぞれのクラスで制作をし、クリスマスとはどんな日なのか、気持ちを高めながら過ごしていました。そして、たいようぐみの聖誕劇は子どもたちも緊張しながらも一つになり、最後までセリフを言う姿は、他のクラスの子どもたちにも印象に残ったように思いました。今年も残すところあとわずかになりました。大掃除をし、一年の締めくくりをしながら新しい年を迎える準備をしたいと思っています。

そらぐみ

＜クリスマス聖誕劇＞

クリスマスとはどういう日なのか、子どもたちに聞いてみると、「ツリー」「ケーキ」とイメージにあわせて言う子どもがいる中で、「イエスさまの誕生日」と答える子どももいました。一人ひとりクリスマスについてのイメージがあり、最初は色々なクリスマスの絵本を見たり、クリスマスのパープサートを見たりすることから徐々に劇に繋がっていくことになりました。お話の中で、「かいばおけ」や「宿屋」、「マリア」「ヨセフ」という言葉聞き、「知ってる」「これどういう意味なん？」と聞いていました。絵本ではそらぐみがする宿屋さんはほんの少ししか出てきませんが、少しずつ「あ、マリアさんとヨセフさんを迎える役だ」ということに気づいてきたようです。パープサートや去年のビデオを見て、歌やセリフなどさらに、物語の中に入っていました。

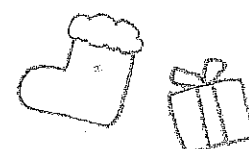
12月前半にクラスが閉鎖し、クリスマスごっこも後半から始まり、毎日の活動の中でごっこをする日々が続きました。制作もしていたので子どもたちも外に出たいという気持ちがあったと思いますが、ごっこの中で前で劇を演じたいようぐみの子どもたちを見て、「カッコいい」「来年たのしみ！この役やりたい」と心に決めてる姿も見られました。そらぐみだけで遊びの中で宿屋をすることもありましたが、たいようぐみと合わせると、見られていることから前に立つといつもより小さな声になってしまったり、落ちつかない様子の子どもも中にはいました。しかし、当日が近づくにつれ、おうちでもしているという話が聞けたり、やってみようという気持ちが膨らんでいったように感じました。迎えた当日では、いつも通り元気に登園した子どもたちでした。様々な思いを抱え、保育者が「さあいくよ！」と声をかけると、並んだ時からさっと気持ちが切りかわったことが伝わってきました。宿屋さんとして扉から外に出る時もドキドキしていましたが、たくさんの人に見られていた中でも今まで一番大きな声でした。劇が終わり、ほっと一息ついたあとにたいようぐみにならって「マリア、マリア～」と真似する子どもがいました。それぞれの思いの中で一人ひとりが出来たという自信に繋がってくれると嬉しいです。たいようぐみの姿を見たことで「すごいな！」「カッコいい！」という気持ちを持って、来年度に向けて期待の気持ちが膨らんでほしいなと思います。

今年も1年あった間でしたが、ありがとうございました。
来年度も よろしくお願ひいたします。よいお年をお迎えください。

たいようぐみ

みんなで作った聖誕劇

12月は、月初めにクラス閉鎖となり、予定していたクリスマスごっこ、このスタートが遅れてしまいました。3週間くらいから、やっと取り組みを始め、みんなで考えて作った台本を元に歌やセリフ、各役割りの練習を重ねます。演じる度に自信が付き、声も大きくなり楽しさも増えいき、「あしたもしたい！」「みんなで作るのってたのしいな」と、憧れのページェントを自分たちができることを喜んでいました。ナレーター(セリフの量が少なくなかなか覚えることが難しい)たり、他の役でも自信が持てずに「やりたくない」とバカが揺れる事も何度もありましたが、良かった所を誉められたり、友だちに言えられたりする中で、気持ちを立て直しやってきました。自分たちの演じているところをビデオで撮り、見返した時には、「おもってたより、こえ、ちいさかった」「フラフラしてたらめだなあ...」と一人ひとり課題を見つけているようでした。できなかったことが上手くいった時には、自然と拍手が出たり、



「できたせん！」「すごい！」と声をかけていて、自分のことだけでなく、周りの元氣張りにも目を向けられるようになったことで、みんなが一つのものを作り上げているという意識がより高まったのではないかと思います。当日の子どもたちの表情はやる気満々！3Fに上がる前に「ちからをあわせて えいえいおー！」「ドキドキするけど たのしんでやろう！」とバを一つに本番にのぞみました。本当に今まで一番素晴らしい姿でした。気持ちを込めてセリフを言えたこと、毎日の練習も気持ちを切り替えながら練習できてきたこと、友だちのことも応援できたこと、みんなが気持ちを一つにできたこと、今までの積み重ねがあつた姿だ、と思います。保護者の方にも

子どもたちの気持ちに寄り添って、もらい、おうちでも練習して頂いたり、当日も温かく見守って頂きご理解とご協力、ありがとうございました。

